

令和 8 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|--------|-----|------------------|----|-------|----|-------|-----|----------------|-------|------|-------|------------|---|---|----|
| 学校番号 | 66 | 学校名 | 茨城県立つくばサイエンス高等学校 | | | | 課程 | 全日制 | | | 学校長名 | 石塚 照美 | | | | |
| 教 頭 | 粉川 雄一郎 | | | | 中島 達也 | | | | 事務室長名 | 松並 善市 | | | | | | |
| 教職員数 | 教諭 | 53 | 養護教諭 | 1 | 常勤講師 | 1 | 非常勤講師 | 0 | 実習教諭、実習講師、実習助手 | 6 | 事務職員 | 4 | 技術職員等 | 5 | 計 | 74 |
| 生徒数 | 小学科 | | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 合計 | | 合計 クラス数 | | | |
| | | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | | | | |
| | 科学技術科 | | 72 | 17 | 59 | 13 | 51 | 17 | | | 182 | 47 | 7クラス | | | |
| 普通科 | | 37 | 22 | 55 | 42 | | | | | 92 | 64 | 5クラス | | | | |

2 目指す学校像

- ・ 科学技術やデータサイエンスに関する探究活動を通して、次世代の科学技術や現代社会の課題解決をする人財を育成する学校
- ・ 大学や企業、研究機関との連携を通して主体的かつ協働的な学びを推進する学校

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

| | |
|---------------------------------------|--|
| 育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー) | 次世代の科学技術や社会の担い手として、未来を切り拓く人財の育成を目指す。 |
| 教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー) | 幅広い学問分野への知的好奇心、探究心を育み、進学後の学びの基礎を築く教育課程を編成し、実施する。 |
| 入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー) | 科学や現代社会への知的好奇心、探究心をもち、未来を創り社会を変える志のある生徒を求める。 |

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

| 項目 | 現状分析 | 課題 |
|-------|--|--|
| 教務部 | <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動に力を入れ、本校の魅力発信を進めた。しかし、定員が満たされていない状況が続いている。R7 178/240 R8 148/240 ・入学段階において基礎学力の差があり、授業改善及び授業研究を進める必要がある。 ・多様な生徒の増加により、外部での探究の機会を設ける意識の増加や学校生活等において配慮を要する場面が増えている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会への本校の特徴の理解を進め、志願者数の増加に努める。 ・教員と生徒両方における授業改善の推進と、学習習慣の定着を図る。 ・生徒や家庭の実情に合わせ、ラーケーションや遠隔授業の運用を図る。 |
| 進路支援部 | <ul style="list-style-type: none"> ・上級学校への進路を見据えた段階的な進路支援が必要である。進路だよりの発行は毎月1回、進学のおしおき発行 ・Classi や外部模試の活用が乏しいため、普通の学習と模試の結びつきやClassi の活用促進をし学力増強に努める必要がある。生徒向け模試分析会各年次3回以上、教員向け模試分析会年間3回以上、進路講演会2回以上実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学見学や外部講師、大学生との直接的な対話の機会を増加し、進路に対する意識の醸成と教員の進学指導に対する研修の機会に努める。 ・授業でのClassi の活用や課題や自習課題としての活用を具体的に促進する。外部模試を、準備→本番→自己分析→復習のサイクルでできるよう支援し、個々の学力の増強を図る。 |
| 生徒支援部 | <ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒や複雑な家庭環境の影響により、個々の生徒の抱える課題が増加傾向にある。sc年間20日、sswの派遣要請1回 ・コミュニケーション不足による生徒間のトラブルが増加傾向にある。また、いじめ認知は早期対応により重大事態に陥っているものはない。認知件数は数件ある。 ・自転車の登下校中の事故や転倒によるけがの件数が横ばい状態である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・SC やSSW の活用により、問題が解決しているケースが多いため、今後も利用を促進する。また、特別支援教育コーディネーターによる面談の回数を増加させる。 ・授業中だけでなく課外活動中も含めた学校生活全般において、対人関係の育成に努める。また、いじめの早期発見、早期対応や学校生活アンケート、個人の相談窓口の活用を増加させる。 ・交通安全教室や原付バイク講習会の実施、集会やホームルームにおける指導などにより、事故件数を減らす。 |
| 特別活動部 | <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭実行委員や応援委員など、生徒の自主性で希望者を募った。多くの生徒が積極的に参加し、学校行事を活性化した。 ・学校行事の事後アンケートにおいて、生徒の満足度は80%を超えており、積極的に参加している姿がうかがえる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の促進を図るため、生徒の自主性を促進する委員会活動を推進する。 ・行事等の参加をより実りあるものにするため、キャリアパスポートの利用を促進する。 |
| 事業戦略部 | <ul style="list-style-type: none"> ・サイエンスアドバイザーの活用や課題研究発表会を含めたアウトリーチの活動が促進できた。 ・小・中学生向けの実験教室の実施やサイエンスリ | <ul style="list-style-type: none"> ・サイエンスアドバイザー8名と連携を密にし、特別授業や研究のアドバイスを得やすい状況を推進する。また、生徒のアウトリーチの機会を増やす。 ・実験教室など、本校生徒を交えた体験の機会を増やす。 |

別紙様式 1 (高)

| | | |
|-------|--|---|
| | <p>ーダーの育成の活動を精力的に行えた。 参加者延べ数 約600名</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の魅力発信のための広報活動を工夫し、様々に実施した。 <p>NewsLetter年3回発行、ホームページ閲覧数約49万</p> | <ul style="list-style-type: none"> スクールガイド、本校HP、SNSなどの発信形態の特性を生かし、さらなる本校の魅力発信に努める。 |
| 働き方改革 | <ul style="list-style-type: none"> 教職員の超過勤務時間については減少しており、計画的な年休取得や定時退勤日の実施も進んでいる。しかし、授業や校務分掌の内容により、業務量のバランスについては、不均等な部分がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 校務分掌の役割と人員の見直し、適材適所の教職員の配置、D X化の促進をすることで、業務バランスの適正化を推進する。 I C T活用や授業資料の共有、会議の効率化を促進する。 |

5 中期的目標

| |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 主体的かつ協働的な学びの中で、希望進路実現のための確かな学力を育成する。 体験に即した教育やI C T授業を実践し、個に応じた指導や協働的学びの実現を図る。 生徒のよりよい人間関係を築く力や異文化理解、多様な他者と分け隔てなく交流できる力を向上させる。 大学、研究機関との連携を深め、探究活動の深化、生徒の課題解決力とアイデアを具現化する力を育成する。 社会情勢や国際社会の変化に柔軟に対応できる力の育成と国際理解教育の推進をする。 生徒の学ぶ意欲や興味関心を高める授業や行事の実践をする。 |
|--|

6 本年度の重点目標

| 重点項目 | 重点目標 |
|-------------------|--|
| 1 教科指導の充実 | ① D Xハイスクール等で整備したI C T機器の有効活用及び生徒個々のタブレットを使用した個別最適な学習指導や協働学習の充実に努める。 |
| | ② 年間指導計画に則り、目標に準拠した観点別評価により、指導と評価の一体化を図り、生徒個々の学習を充実させる。 |
| | ③ 主体的・対話的で深い学びを目指した授業を実施し、生徒個々に即した思考力・判断力・表現力の育成に努める。 |
| 2 進路意識の高揚と進路希望の実現 | ④ 各授業や特別活動、学校行事等あらゆる機会を通して、進路に対して考える機会を設け、進路意識の高揚を図る。 |
| | ⑤ 生徒の課題解決能力の育成のため、大学・研究機関との連携を深化させる。 |
| | ⑥ 4年制大学進学をめざす系統的、段階的指導を推進する。 |
| 3 特別活動等の充実 | ⑦ 生徒が特別活動に積極的に参画する仕組みをつくり、生徒主体の特別活動等の充実に努める。 |

別紙様式 1 (高)

| | |
|-------------|---|
| | ⑧ 生徒会活動を通して自主自立を促し、生徒に社会の一員としての自覚をもたせる。 |
| 4 働き方改革 | ⑨ キャリアパスポートを活用し、特別活動での学びのポートフォリオ化をし、自己を振り返る活動を行うことでキャリア形成の手助けをする。 ⑩ 教職員のワークライフバランスの意識、互いに業務を分担しあう意識を醸成する。 ⑪ 定時退勤日、閉庁日の設定、超過勤務時間を削減する。 |
| 5 授業改善の推進 | ⑫ 生徒の授業評価において授業満足度4点満点中、学校全体の平均を3.5以上にす る。 ⑬ 授業改善推進プロジェクトチームを中心に授業改善を促進し、相互授業参観、他 校視察、研究授業や師範授業の開催、校内研修等を推進する。 |
| 6 情報発信活動の充実 | ⑭ 本校の特性の周知活動を展開し、魅力発信のための方策を展開する。 ⑮ 生徒の外部発表の機会の増加、外部講師との連携強化などを通し、本校独自の教 育活動の充実を図る。 |